



杉森 賢二 議員



未来ある子どもたちのために

Q 職業観教育「^{*}キャリア教育」の充実を

A 目標を持つための有効な取り組みを行いたい

キャリア教育の現状は

問 子どもたちに対し、「社会奉仕の精神」「仕事の楽しさ」の理解と習得、目標設定の徹底が必要だと考える。小中学校では、児童生徒に対し現在どのような取り組みを行っているのか。

教育長 小学校の低学年では、自分と人や社会との関わりの中で生活していくために家族や学校の先生に支えられ、友達と過ごすことの大切さを学習している。中学年では、お店の仕事や農家、工場の仕事について学習し、町内の商店街や特産物、工場で作っているものを取り上げて私たちの暮らしとどのようにつながっているのか学習している。高学年の社会科では水産業や農業、自動車などの産業を調べる活動を通して

て、社会を支えている労働の大切さを学習している。また、中学校では、二年生の職場体験を中心に行っている。体験前にはあいさつ、言葉遣い、電話のかけ方など社会常識を学んでいく。

職業体験の現状は

問 地元の企業経営者や事業責任者に協力してもらい、自らの経験や仕事内容、やりがいなどの職業講話の実施は。また、中学校の生徒が行っている職場体験の企業探し、安全面、受け入れ企業との連携などの現状は。

教育長 総合的な学習の時間が減少したため、多くの時間をかけられないのが現状である。特に中学校の職場体験では、受け入れ事業所の開拓や生徒の受け入れ依頼などに時間がかかる。安全や利

益の面からすべての事業所が円滑に生徒を受け入れられているわけではない。前年度の実績から事業所に依頼し、保護者、地域の方の協力を得て受け入れ可能な事業所を探している。

職業体験の効果は

問 職業体験を実施した後の、児童生徒たちの気付きや意識の変化はあったか。また、職業観を高めることができたのか。

教育長 小学生は実際に見学や体験した後、職業への関心が高まり、いろいろな職業に興味が生えてきている。また、働く人の大変さも知ることができた。中学生は自身を振り返り、進路を考えていくための良い機会となっている。体験後の感想には、勤労の苦労や喜びを感じる子どもたちが多く、

親への感謝の気持ちを持つ生徒も少なくない。二年生での職場体験は、これからの進路選択を行う中学生にとって、目標や夢を持つために有効な取り組みであると考えている。

※キャリア教育・・・一人一人の社会的、職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。